

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校高山日赤分校

学校番号	119B
------	------

自己評価

学校教育目標	主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～
評価する領域・分野	教育活動の充実（キャリア教育）
現状及びアンケートの結果分析等	アンケート結果では、部を越えた集団活動や人とのかかわりを大切にした教育活動に対して評価をいただいた。小規模校であるからこそ可能である児童生徒の日々の交流、全校で行う特別活動、また、今年度は校内研究として部を越えて編成したグループによる授業研究を行っており、部にとらわれない教育活動がこれまでと同様に評価されたと考える。進路に関する指導支援については、情報提供は一定の評価をいただいたが、児童生徒個々の進路支援については課題が指摘されている。当校の児童生徒にとってのキャリア教育とは何かを今一度考え、それぞれの児童生徒の特性や願いを最大限生かした将来の生活につなげていきたい。そのために、小中高と継続した教育や進路支援が必要であり、これを実現できるように教職員が研修し、教育活動を充実させていく必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を踏まえた教育活動の充実。異年齢とつながる、自己を見つめる、チャレンジする機会を設ける。 ・生徒や保護者の願いや特性に応じた進路をともに考えるため、情報収集や提供を行う。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の狙いと評価の観点を明確にした、キャリア教育も含めた教育活動の充実。個別の教育支援計画の活用（教務研修部、支援センター、各部） ・職員の専門性を高めるための研修（教務研修部） ・進路支援に関わる情報収集、進路開拓、関係機関との連携（生活進路支援部、支援センター） ・自己理解を深めるための生活経験の機会の充実（各部、生活進路支援部） ・自分のよさや可能性を發揮できるような活動の展開（各部、生活進路支援部、学習支援部） ・他との関わり合いを深め、仲良く生き生きと活動できるような特別活動の充実（学習支援部）
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの自立活動の系統化 ・かかわることに重点を置いたキャリアアップウィークの活動の充実 ・キャリア教育の段階表の周知と見直し ・進路支援に関する職員研修、授業改善に関する研修の実施 ・本校と連携した進路に関わる情報提供の機会の充実 ・全校での特別活動の実施。全校縦割りグループでの全校集会、全校遠足等 ・各部が主体となった「ぶんこう夢フェスタ」への取組 ・授業や課外活動での奉仕的な取組の設定
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・懇談時の保護者からの意見 ・個別の指導計画に基づく達成度
主な取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部まで行われる自立活動について、それぞれの段階で目標や内容について見直しを行い、来年度からの計画に生かすことができるように表にまとめた。 ・中学部、高等部が、高山市役所で、自立活動（キャリアアップ（CU））で

	<p>行っている活動を実践して紹介するとともに、ワークショップとして一般の参加者と一緒に製作に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部のキャリアアップウィークの活動を全校集会で、全校児童生徒に向けて紹介した。内容を掲示した。 ・当校のキャリア教育について、部会で話題にあげ、職員で意見交流を行った。段階表の見直しも進めた。 ・小学部から高等部まで部を越えたグループをつくり、それぞれの特性や可能性に応じた授業を行い、授業内容や成果について研究した。様々な経験や所属する部が違う教員をグループに配置することで、授業改善に役立った。 ・学校祭「ぶんこう夢フェスタ」では、一人ひとりに挑戦の場面を設け、計画的に取り組む、その成果を披露した。 ・ひびきあい活動において、積極的にかかわることを意識した取組を行った。 ・中学部、高等部が高山市警察署生活安全課の協力も得ながら MS・MSJ リーダーズの活動で、校内での挨拶運動、秋の高山祭後の町内清掃ボランティアを行った。 ・PTAが主催して、地区外の事業所見学を行った。 ・PTAのつながりもあり、本校で行われる進路や将来の生活に関わる説明会を分校の保護者にも紹介した。
<p>評価の視点</p> <p>① 各部や全校での集団活動や交流の機会を設け、学校全体でかかわりを大切にする教育活動を展開できたか。</p> <p>② 保護者や関係機関と連携し、将来に向けた情報提供や、将来を見通した進路支援をすることができたか。</p> <p>③ キャリア教育について理解を深め、日々の授業の充実を図り児童生徒の指導支援にあたることができたか。</p>	<p>評価</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>成果・課題</p> <p>○部を越えたグループに様々な教員が配置されることで、所属する部の児童生徒以外にも積極的に言葉がけを行うことができた。グループ内の児童生徒間のかかわりを深めることができた。</p> <p>○授業研究のために編成したグループで特別活動も行ったことで、児童生徒間の関わりへの意識を高めることができた。</p> <p>○MS、MSJ リーダーズ活動や、地域でのワークショップにより、自分たちの取組を知ってもらい、人から認めてもらう経験ができた。</p> <p>○個別の指導計画、自立活動、キャリア教育段階表などの見直しを進めることで、教職員がそれぞれの日々の教育活動を見直すことができた。</p> <p>▲児童生徒のもっている力を高めるために、授業や校外学習でのねらいや意義を担当する教員でもっと共通理解し、協働して授業力を高めることができるとよい。各種研修に積極的に参加し学んだことを職員間で交流できるとよい。</p> <p>▲教育支援計画や個別の指導計画の作成については、これまで以上に保護者や本人の願いを聴き取り反映できるとよい。</p> <p>▲卒業後の生徒を取り巻く環境について情報収集し、学校全体で情報を共有し、保護者にも適切な情報を提供できるとよい。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・MSJ、MS リーダーズ活動など自己有用感を高める活動の企画する。 ・キャリア教育の視点を踏まえた教育活動のさらなる充実するため、意識を高め統一するためのキャリア教育段階表の継続的な見直しを行う。 ・小中高で系統性をもった教育活動を展開する。発達段階に応じた自立活動の授業内容充実を図るための研修、個別の支援計画等の作成に向けた研修

	<p>を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかわりを大切にした特別活動を継続実施する。 ・職員の専門性の向上を図る。校内外への研修の参加を推進する。 ・児童生徒の将来の生活に関わる情報を積極的に収集する。 ・主体的な進路選択に向けて積極的に情報提供する。本校と連携した研修会を実施する。
--	--

学校関係者評価 （令和7年12月22日実施）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の卒業後の生活を見通して学校で支援を考えていることが大変ありがたいと感じる。将来の生活は保護者も不安を感じており、学校と一緒に考えてくれることが安心につながる。 ・校内でも校外でも人とかかわる活動は評価できる。市役所でのワークショップは多くの方に参加していただけた。子どもたちは最初は緊張していたが笑顔も見られた。知らない人と接する体験は、キャリア教育につながると思う。 ・キャリア教育の一環として、異年齢のかかわりの中で学ぶ取組を今後も充実させてほしい。 ・自己有用感を高めることは大切。児童生徒にはボランティア活動を続けてほしい。
--

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校高山日赤分校

学校番号	1 1 9 B
------	---------

自己評価

学校教育目標	主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～
評価する領域・分野	教育活動の周知
現状及びアンケートの結分析等	アンケート結果では、これまで行ってきた校外作品展や写真展、ホームページへの掲載により、当校の教育活動が地域に適切に伝えられていることを評価していただいているが、より多くの方に当校のことを知っていただくために、写真展等の開催場所や内容については検討を続けたい。アンケートでは、教育環境の整備や教育の質を高めるための取組について「わからない」の回答が多く、児童生徒が直接かかわっている教育活動ではない学校の取組の周知活動が不足していると思われる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のもつ特別支援教育の考え方や手立てを地域の学校に伝える。センター的機能の周知し、コーディネーターが訪問相談する。 ・教育活動を周知する活動の継続
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会、授業参観の計画と実施（教務研修部、支援センター） ・写真展、作品展の計画と実施（各部、学習支援部） ・地域への発信、幼児体験教室、講演会の実施（支援センター） ・当校の教育活動やセンター的機能の周知（教務研修部、支援センター） ・ホームページの充実（学習支援部）
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関や前籍校を対象とした学校見学会の実施。 ・関係機関を通した、未就園児、未就学児対象の学校見学の調整と実施。 ・要請による各種会議や研修会、小中学校へのコーディネーターの派遣。 ・県内小中高等学校、特別支援学校教員及び保護者、関係機関等の職員を対象とした夏季研修会の実施 ・公共機関、福祉施設、商業施設等での作品展や写真展の実施 ・ホームページへの積極的な掲載
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・地域の反応 ・実施の回数
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会の日時を設定して関係機関に案内した見学会のほか、必要に応じて申請を受け、個別で見学会を実施した。 ・要請を受け、コーディネーターが小中学校に出向いて、対象となる児童生徒への支援について特別支援教育の視点を示して在籍校の教員とともに考えた。 ・支援センターについても記載した学校案内を写真展や作品展でも配布した。 ・中学部と高等部で制作したハガキやしおりを写真展や作品展で紹介した。 ・市内6か所での写真展と3か所での作品展を実施した。取材依頼も積極的に行った。 ・行事ばかりでなく日々の教育活動もホームページに掲載した。
評価の視点	評価
① 校外作品展や写真展等を行い、日頃の教育活動や児童生徒の活動などについて地域の方々にわかりやすく伝えることができたか。	A (B) C D
② 学校見学会の実施やセンター的機能を利用してもらうことで、教育活動の周知に努めることができたか。	A (B) C D

③ ホームページや学校だよりで、保護者や地域の方々々に当校の教育活動についてわかりやすく発信することができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>○昨年度と比べてセンター的機能を使用する学校が増えてきた。様々な場面でセンター的機能について紹介した効果があったと思われる。</p> <p>○放課後デイサービスや病院関係者も対象とした学校見学会を行うことで、学校での活動を知っていただくことができた。</p> <p>○ホームページを頻繁に更新することができ、教育活動の周知に役立てることができた。</p> <p>▲学校見学会等での学校紹介の内容について、担当する分掌で説明の内容を検討、精選して、的確に情報が伝わる説明にできるとよい。</p> <p>▲夏季に実施した講演会は市内小中学校の始業式と、幼児教室は本校の幼児教室と同日実施であったことが、両行事に参加者が少なかったことの大きな原因と考えられる。参加しやすい日程を関係各所の予定と調整する必要がある。</p> <p>▲小中学校でのセンター的機能の周知は進んでいるため、未就園児、未就学児への周知も進めて、就学前の保護者や本人の不安の解消に貢献できるとよい。</p> <p>▲安心安全な教育環境をつくるための取組や、実施している職員研修、授業の工夫などの取組の紹介が不足していた。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を開放した教育活動の周知。当校での会議や研修会の機会の提供し、学校に来ていただく機会を増やす。 ・未就学児や未就園児への学校紹介。幼稚園、保育園への学校の情報提供し、就学前の不安の解消を図る。 ・障がいがある児童生徒が在籍する幼保小中への訪問相談。特別支援学校の考え方や手立てを知らせ、地域の子どもたちが安心して学びに向かうことに貢献する。 ・教育環境の整備や教育内容を充実させるための取組の紹介。職員研修の様子や、授業で使用している教材教具、環境整備の状況なども紹介。 ・ホームページ等を活用した積極的な発信の継続。

学校関係者評価 (令和7年12月22日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人に学校を見学してもらうことは今後も続けてほしい。学校が楽しいところであること児童生徒の元気の良さを発信してほしい。 ・学校の掲示物や児童生徒の作品を見ると、学校の様子がよくわかる。こういったものをホームページで発信してみてもよいのではないかな。 ・販売や展示を他の団体と協力して行うことも企画すると、学校のことをより知ってもらえるのではないかな。 ・同年代の児童生徒との交流はどんどんやってほしい。交流を大切にすることでお互いに学ぶことがある。 ・通信やホームページで子どもたちの様子はよくわかる。学校が授業を充実させるためにどのようなことをしているのか、安心安全な環境作りのためにどのようなことをしているかをもっと知りたい。

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨特別支援学校高山日赤分校

学校番号

1 1 9 B

自己評価

学校教育目標	主体的に生きる力を育てる ～気づく、考える、動く～
評価する領域・分野	地域との連携
現状及びアンケートの結果分析等	<p>当校では昨年度から継続して地域のまちづくり協議会の方に防災訓練に参加していただいていること、また専門家からの防災訓練への講評をいただいていることから、地域と連携した防災活動への取組に関する評価は高い。今年度から「地域との連携」の項目となった地域の小中高等学校とのかかわりや地域行事への積極的な参加も高い評価を得ているが、保護者への地域に関する情報提供という点においては課題があり、保護者が求める地域との連携について、今一度確認する必要があると感じている。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学びのために地域の協力を得る。 ・地域の学校との学びの交流を仕組む。 ・地域資源を利用した教育活動を行う。地域の行事への参加する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した教育活動を含む学校安全計画（保健安全部） ・同世代の仲間とのかかわりを意識した教育活動（各部、教務研修部、学習支援部） ・PTA主催の防災研修会や進路研修会（渉外部） ・地域の人とかかわりを意識できるイベントへの参加（各部、渉外部）
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る訓練への地域の方への協力依頼 ・地元防災士による命を守る訓練に対する助言 ・交流籍交流の実施 ・小学校、高等学校との継続的なかかわりを基にした交流活動の実施 ・地域の小学校や中学校の行事への参加 ・防災士を講師としたPTA主催の研修会の実施 ・地域イベントへの参加
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート ・懇談時の保護者からの意見 ・地域の方や交流した児童生徒の感想
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会や近隣施設の協力を得て、命を守る訓練を実施し、協力体制の内容について確認した。また、実際に車いすで移動することで、避難方法について検証した。 ・命を守る訓練では地域の防災士の方から改善点について助言をいただいた。 ・PTAでも防災研修会を企画し、災害時の避難について研修を行った。実際に避難生活で欠かせないトイレや、非常食を体験した。 ・小学部、中学部では交流籍を置く小中学校と連携し、交流籍交流を実施した。合唱祭等にも参加した。 ・今年度企画した校区の小中学校との交流では、事前に当校についての説明を小学校の授業で行い、交流活動は、当校に訪問してもらって行った。 ・継続的に行っている高等学校との交流を引き続き行った。 ・まちづくり協議会が主催するイベントに参加した。児童生徒の作品を展示したり、児童生徒と保護者が参加し、当校の学校紹介、まちづくり協議会の協力を得て行っている防災訓練の紹介をしたり、当校の児童生徒が楽しんでいるボッチャを観客と一緒に رفتったりした。

評価の視点	評価
① 地域の行事や体験的な活動の機会についての情報を保護者に積極的に提供することができたか。 ② 防災対策について、専門家や地域と連携し児童生徒の安全を守る取組をすることができたか。 ③ 同年代の児童生徒との交流や地域の方との交流を積極的に進めることができたか。	A B (C) D A (B) C D (A) B C D
成果・課題	総合評価
○地域の方と連携した命を守る訓練を継続できている。近隣施設への協力を広げることができた。また防災士の方にも参加していただいていることで、災害時の具体的な支援体制を確認でき、参考となる助言を得ることができた。 ○地域の小中学校、高等学校と交流を続けていることで、相手校からも交流内容への提案をいただけるようになっている。交流の場面でも、自然な関りがみられる。 ○当校を会場とした交流では、児童生徒の日常の学校の様子を知ってもらうことができた。 ▲学校所在地での地域との連携は進んでいるが居住区域でのそれぞれの家庭と地域との連携については不明で、実態を知る必要がある。 ▲児童生徒の将来の生活を見据え、本当に必要な地域との連携につなげられるよう、児童生徒や保護者が必要とする情報を提供したり、地域との連携につなげたりできるとよい。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に協力していただいで命を守る訓練の継続。防災士の助言も受け体制を整えるとともに、緊急時に地域の方に気にかけていただける意識の高揚を図りたい。 ・同世代の地域の児童生徒との交流のさらなる充実。当校での交流を行うことで、学校のこと、児童生徒のこと、教育活動についての理解を深める。 ・地域への教育活動の公開。駐車場問題はあるが、地域との連携を深めるためにも学校の日常の様子を知っていただく機会を設ける。 ・地域との連携について、保護者が求めていることを調査し、本当に望んでいる交流や情報提供につなげる。

学校関係者評価 (令和7年12月22日実施)

意見・要望・評価等 <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのかかわりは大切だが、実際に家族が居住する地域に出向くことがどれくらいあるのかが分からない。居住する地域との連携については、実際の様子や保護者のニーズを知る取組をぜひ行ってほしい。 ・学校に通っている間は、学校を通して地域とつながることができる。このつながりを卒業後も続けていくことができるように、これまでの活動を継続してほしい。 ・防災活動については、地域からの参加が同じ人になっているので、もっと多くの人に参加してもらい、分校の中がどうなっているのかを知ってもらえるとよい。 ・地域の小学校との交流はとてもよい。分校に訪問してもらって交流の様子を知ってもらえるよい機会なため、取組は継続してほしい。 ・子どもの数の減少、子どもの多忙化があり、子ども同士が地域でどのように交流できるかは地域の課題でもある。地域も学校と一緒に考えていきたい。 ・写真展や作品展のときに、学校とつながるきっかけを仕組めるとよい。
